

たんぽぽ

秋田県立大曲支援学校
せんぼく校

地域支援部報 第4号
令和7年3月3日



共に学び 共に育つ 居住地校交流

今年度、せんぼく校では、小学部児童7名、中学部生徒5名が居住地校交流を実施させていただきました。継続した交流により、せんぼく校の児童生徒に対する理解が深まり、好きなことや得意、苦手なこと、「〇〇があればできる」などについて質問があったり、交流級で事前に同じ題材で学習する計画を立てたりする工夫が増え、学びの多い充実した交流学習につながっています。

交流では、H小学校の四年生は、福祉の学習で習った手話を使ってせんぼく校の児童と挨拶を交わし、互いに心が通じ合う喜びを感じていました。S小学校では、ボッチャのルール説明の係を競技に親しんでいる本校の児童が担当しました。分かりやすく説明したり、見事なボールのコントロールを披露したりすることで、地域の友達に得意なことを認めてもらう機会になりました。

自分のことを知っている友達、理解してくれる仲間が地域にいることは、地域で安心して生活することにつながります。今後も地域の学校に御協力をいただきながら、特別支援学校の児童生徒が居住地校交流を通して地域とつながり、互いを理解し、地元の仲間を支えられながら豊かな生活を送ってほしいと願っております。



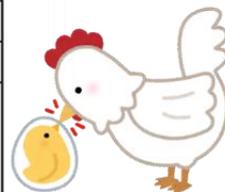
高等部の進路指導について

高等部では、卒業後の進路について自己決定できるように学年が上がるに従って、図のように段階的に学びをステップアップしていっています。特に「実習」では、校内・現場・地元実習と学校内から地域へと段階的に学びの場を移行していきます。様々な職種で実習を行い、自分に合った仕事、将来続けていける仕事を見極めていきます。職種が決まると、本人への必要な支援や配慮等を伝えながら、繰り返し実習を行い、会社の仕事に慣れた状態、会社も必要な支援や配慮が分かった状態で進路を決めていきます。

もちろん保護者の方にも、実習の様子を見学してもらい、働く力がどのくらい身に付いているのか見てもらい、家庭の支援がどの位必要なのかを考えてもらいます。

卒業後も学校では、「追指導」を三年間行っています。卒業担任や進路担当が職場を訪問し、仕事の様子や気になっていること等を本人、会社の担当者に伺い、必要に応じて在校時の様子を伝えたり、支援してくれる関係機関に相談し、支援してもらったりします。

	(1年生)	(2年生)	(3年生)
ステップアップ イメージ	「(進路を) 決める」		
	「(自分に合う仕事、やりたい仕事) 分かる」		
	「(いろいろな職種を) 知る、広げる」		
学習活動	実習Ⅰ、Ⅱ期[10日間ずつ] (校内実習) 職場見学・体験	実習Ⅰ、Ⅱ期[10日間ずつ] (現場・地元実習) 企業説明会	実習Ⅰ、Ⅱ期[10日間ずつ] (地元実習) 雇用相談前提実習



障害は会社に伝えた方がいいのか？

11月6日に「県南地区高等学校特別支援教育研修会」が横手高等学校を会場に開催されました。高等学校の教職員や労働、福祉関係者が集まり、高等学校の教職員の指導・支援及び校内支援体制の充実等について、講話やグループ別協議を通して理解を深めました。会の中で、横手公共職業安定所(ハローワークよこて) 齊藤衛氏の話題提供の内容の一部を紹介します。

会社に障害等を伝える(オープンにする)

【安心できること】

- ・就職後の定着率が高い
- ・体調が悪い時に休みが取りやすい
- ・隠すストレスから解放される
- ・会社に相談できる
- ・支援者が職場内の調整をしやすくなる
- ・通院日や服薬時間を確保しやすい
- ・様々な支援が受けられる(障害者専用求人に応募、職場実習、ジョブコーチ、助成金 等)

※R5ハローワークよこて作成

【不安なこと】

- ・職場に理解のない同僚がいる場合がある
- ・理解のない職場に敬遠される場合がある
- ・職場で特別扱いされてストレスになることがある

会社に障害等を伝えて応募するためには、本人の自己理解や保護者の理解が必要です。引継ぎにおいては、「個別の移行支援計画」に基づいて、高等学校で行っている有効な支援方法や地域の関係機関によるサービス内容の情報提供を行い、卒業後の連携の在り方について協議します。支援に必要な範囲で本人の障害特性や配慮事項について情報を共有し、配属先での受け入れ体制を整えることで、職場定着と業務能力の向上が図られます。

「せんぼく太鼓」YouTubeでご覧ください



QRコード

令和6年度 秋田県特別支援学校文化祭で披露した、高等部生徒によるせんぼく太鼓「響輝(ひびき)」を、YouTubeで配信しております。和太鼓演奏と生徒による「角館のお祭」の手踊りやお囃子も織り交ぜた特別プログラムです。高等部の「総合的な探究の時間」の学習の成果をどうぞご覧ください。



せんもんかんの部屋

ふくでん 福伝ROOM No.5

教諭(兼)教育専門監 おおかわ やすひろ 大川 康博

先生の気づきと子どもの成長

今年度もたくさんの園・学校を訪問させていただき、子どもへの支援と指導についてたくさん学ばせていただきました。今回は、Aこども園での先生の関わり方について紹介します。

Bさんは、集団での活動時間になってもそれまで行っていた人形づくりが止められずに教室の一角で続けていました。一人の先生が近くでBさんを見守り、もう一人の先生は集団での活動を進めます。一緒に参観していた園長先生は、「Bさんは次に何をするのか分かっているのです、今やっていることが終わり、自分で区切りがつけられれば、集団活動に参加します」と言いました。これまでは集団に合わせようと先生が声を掛け、余計に参加できない状況にしてしまうことが多かったそうです。今の対応に変えてからは、多少遅れながらも集団での活動に参加できることが多くなったそうです。



Cさんは、気持ちが不安定になったときに「〇〇を投げたら、どうなる？」などと先生に質問するそうです。先生が答えたことと自分の考えが違くと、さらに不安定になっていたため、対応に苦慮していました。最近では、質問の答えをCさん自身がもっていることに気づき、「Cさんだったら、どうする？」と返答するようにしました。Cさんが言ったことに「そうだね」と返すことで不安定になる場面が減ってきました。



いろいろな考え方の先生がいます。「何でその場で注意しないんだ」「周りの子どもたちの迷惑だ」「指導放棄だ」などと思われるのではと、心配する先生もいるかもしれません。そのような場合は、今までの経緯を説明し、その上で望ましくない行動を少なくするための指導方針であることを説明し、園・学校全体で共通理解を図ることが大切です。自園・校だけにとどまらず地域で成果を共有できるよう、今後も応援していきたいと思えます。



一年間、特別支援学校のセンター的機能をご活用いただきありがとうございました。「どこに相談したらよいか分からない…」という場合でも、さまざまな情報提供や連携した支援を行っていきますので、今後もお気軽にお声掛けください。



秋田県立大曲支援学校せんぼく校

〒014-0372 仙北市角館町小館77番地2
TEL 0187-42-8568
FAX 0187-42-8569
メールアドレス senboku-s@akita-pref.ed.jp

副校長：阿部 裕子
教育専門監：大川 康博(大曲支援学校)
地域支援部：佐々木 奈織

依頼状の様式等は、大曲支援学校 HP からダウンロードできます。

